

ワーク・ライフ・バランスを考えよう

? ワーク・ライフ・バランス とは

「仕事と生活の調和」のことです。

働くすべての人が、仕事と、育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動などの仕事以外とのバランスをとり、どちらも充実させる働き方・生き方を指します。

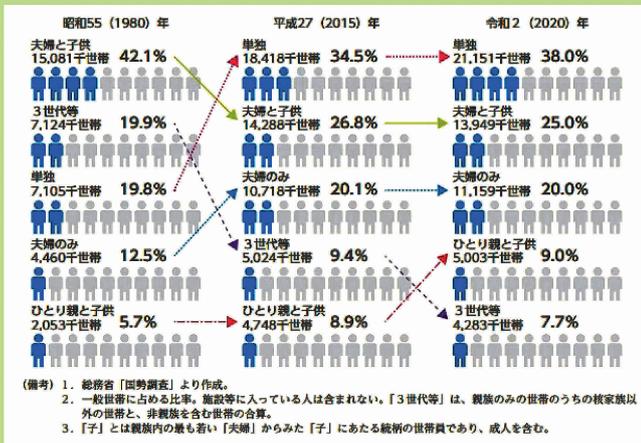


社会は大きく変化しています

昭和から令和へと時代が移る中で、家族のかたちや働き方は変化してきました。



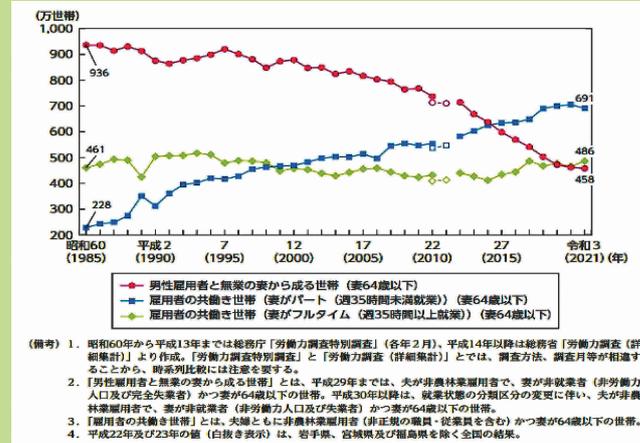
家族の姿の変化



出典：男女共同参画白書 令和4年版(内閣府 男女共同参画局)

国勢調査によると、昭和55年は「夫婦と子ども」からなる世帯が全体の約4割を占めていましたが、令和2年では、「単独世帯」が全体の約4割となっています。

共働き等世帯数の推移（妻が64歳以下の世帯）



出典：男女共同参画白書 令和4年版(内閣府 男女共同参画局)

共働き世帯も昭和60年以降増加しており、令和3年には、妻が64歳以下の世帯において、共働き世帯(妻が週35時間以上就業)が691万人、無業の妻からなる世帯が458万人となっています。

仕事(ワーク)と生活(ライフ)の望ましいバランスは人それぞれで、価値観も多様化しています。性別にかかわらず、自分らしく生活するために、ワーク・ライフ・バランスについて考えてみましょう。

ワーク・ライフ・バランスを考えるメリットとは

個人にとって

仕事と生活を自分で設計し、健康と成長を両立しながら自分らしい人生を実現できる

社会にとって

子育て、介護、健康など事情がある人も社会に参加し、誰もが力を発揮して支え合える社会になる

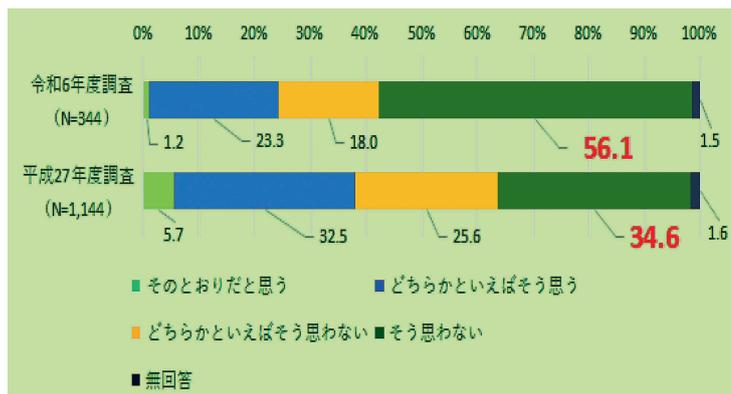
企業にとって

多様な人材が定着し、属人化を減らして生産性と競争力を高める強い組織へ成長できる

町のアンケート結果

令和6年10月に「男女共同参画に関するアンケート調査」を実施しました。
(総数1,000人・無作為抽出・男女500人ずつを対象)

Q. 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか？



A. 56.1%の方から「そう思わない」との回答をいただきました。これは、平成27年度調査時の34.6%から21.5ポイント増加しています。町は、「第四次もろやま男女共同参画プラン」のなかで、令和16年までに「そう思わない」70.0%に達することを目標としています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方をする人が少なくなっています。



ワーク・ライフ・バランスは誰にとっても身近なことです

ワーク・ライフ・バランスは働いている人だけのものではありません。

学生、主婦(主夫)、シニア世代など、誰にとっても身近なテーマです。「仕事」を「学業・家事・地域活動」などに置き換えて、家庭生活や自分の時間との調和がとれた自分らしい生活について考えてみましょう。

男女共同参画に関する講演会を開催しました

令和7年10月、役場の会議室で、男女共同参画アドバイザーの荻野裕佳里さんを講師に迎え、講演会「ワーク・ライフ・バランス ～いまむかし～」を開催しました。講演では、家族のあり方やライフスタイルの多様化に伴い、人生設計の理想も変化していること、また、ワーク・ライフ・バランスは「ウェルビーイング」(良く生きること)を考えることにつながる、というお話を分かりやすくご講演いただきました。



問合せ 役場総務課自治振興係 ☎295-2112内線314